

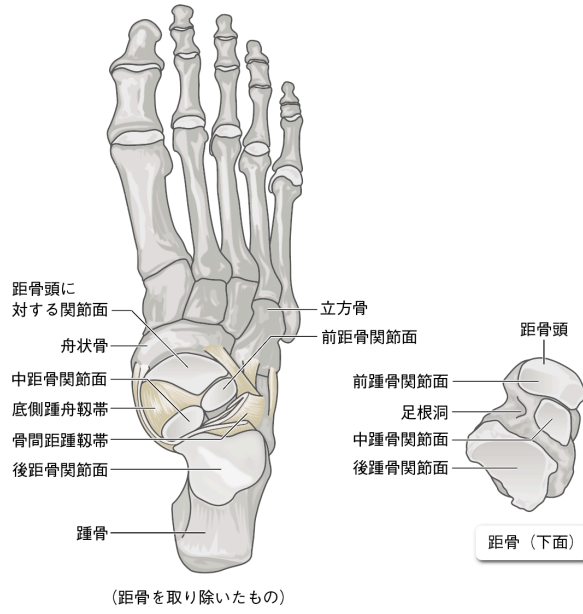
正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2020年12月18日）

■第1版 第1刷（2019年9月15日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
第2章					
36	上から4行目	一部の関節には、 わずかな 膠原線維を多く含んだ 線維軟骨性組織 が存在する。	一部の関節には、膠原線維を含んだ 線維軟骨性結合組織 からなる 小板 が存在する。		20/12/18
56	上から13～15行目	収縮速度と筋張力 の関係は、カー速度曲線によって示される(図2-38)。このグラフの横軸に 示す力は筋張力を意味するため、運動における負荷量をあらわすことになる。また縦軸は収縮速度を示しているが、 速度ゼロの時点は…	等張性収縮条件下でみた収縮速度と力 の関係は、カー速度曲線によって示される(図2-38)。このグラフの横軸は 負荷の大きさ 、縦軸は収縮速度を示しており、速度ゼロの時点は…		19/11/01
第3章					
82	図3-31A	(近位) (遠位)	(遠位) (近位)	近位と遠位が逆になっておりました。	20/05/08
第5章					
99	上から11～12行目	胎生期における腎索の遺物とされる線維輪には、ごくわずかの髄核細胞が存在し、 プロテオグリカンやコラーゲンの産生に寄与する。	さらには、胎生期における腎索の遺物とされる髄核細胞がわずかに存在し、 プロテオグリカンやコラーゲンの産生に寄与する。		20/04/17
第6章					
137	図6-29 図説明文2行目	…境はない。 短足底靭帯は、長足底靭帯の深層に位置するため描かれていない。	…境はない。	一文を削除	20/07/31
138	上から2行目	長・短足底靭帯 や底側踵立方靭帯が関与する	長足底靭帯や、短足底靭帯とも称される底側踵立方靭帯 が関与する		20/07/31
138	上から3行目	踵立方骨 関節部に相当する。	踵立方 関節部に相当する。		20/07/31
140	下から3行目	骨間距踵靭帯にも、横足根関節を補強する靭帯がみられる。 前述したように、足のアーチにも大きく寄与する靭帯が多数存在する。	前述したように、足のアーチにも大きく寄与する靭帯が多数存在する。 底側踵舟靭帯や長足底靭帯は横足根関節を補強する。		20/07/31
141	図6-34		左下に、 後距骨関節面 を加える	※1参照	20/07/31
巻末付録					
184	付録図21の左図		小殿筋ならびに上部の中殿筋(切断)の描き方を修正。	※2参照	19/11/01
199	付録表12の「内側広筋」の「起始」	大腿骨の転子間線下部、大腿骨粗線の内側唇、 内・外側 大腿筋間中隔	大腿骨の転子間線下部、大腿骨粗線の内側唇、 内側 大腿筋間中隔		20/01/17

※1



※2

